

令和5年度第1回森町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和5年6月20日(火) 14:00～

場 所 森町公民館 2階講堂

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

- ・長瀬副町長より挨拶。

※森町地域公共交通会議設置要綱（以下、要綱という。）第5条第2項により、会長は森町副町長が務める。

3. 報告事項

①実証運行利用状況集計報告

- ・ 別途資料により説明

【酒井委員】 無償運行から有償運行に移行した際に、利用状況に大きな減少が見られないか懸念していたが、一定数の利用が確保されていると認識している。
有償運行に移行した際に、住民から有償運行に対する意見は挙げられているか。

【事務局】 後ほどの住民意見交換会の開催報告でも報告させていただくが、「無償だからお試しで乗っていた」、「意識して乗っていた」という意見もあり、有償運行に移行したことで、そのような利用形態がなくなったという話は聞いているところである。

一方で、有償運行に移行しても生活の足として必要としている方々は一定数いるため、今後も運行を継続することが重要な交通と認識している。

【中澤委員】 本町市街地内で利用している方は、どれくらいいるのか。

【事務局】 本町市街地に居住する方も積極的に利用している状況が見られている。

【伊藤委員】 社会福祉協議会で実施している「ふれあいサロン」で利用状況を聞いてみたところ、本町市街地内のちょっとした距離の移動でも利用されている実態が見られた。

【中澤委員】 利用者数が確保されることは喜ばしいことであるが、他の交通モードと競合していないかが懸念される。

【為国先生】 他の自治体の事例を踏まえると、森町のように定時定路線型の公共交通の場合、その時の移動ニーズに合わせて公共交通を取捨選択して利用している傾向が見られるため、今後も複数の交通モードの運行を維持することが森町の地域公共交通網として重要である。

②住民意見交換会の開催報告

- ・ 別途資料により説明

【佐々木委員】 利用者の利用目的や利用頻度は把握されているか。

また、JRなど他の公共交通との接続状況は確保されているか。

【事務局】 運行ダイヤを作成する際にも住民意見交換を実施しており、現状は買い物及び通院が主な利用目的として捉え、運行時間帯を設定している。一方で、住民意見交換などで把握しているニーズの全てを満たすことは難しいと認識しており、通院する曜日は個人によって異なるため、ニーズと運行曜日の齟齬が若干生じている。

現状の運行内容で完結している訳ではないため、ニーズの変化等への対応に向け、継続して見直しを実施する必要があると認識している。

【酒井委員】 バスに合わせた生活に切り替えたという意見は非常に重要であり、住民の方が協力することによる持続性の確保は、今後の地域公共交通において重要であると認識している。

4. 議 事

①今後の運行形態について

- ・ 別途資料により説明

【伊藤委員】 現状の駒ヶ岳・赤井川線の運行ルートは、駒ヶ岳地区及び赤井川地区に定住している方の利用が基本と認識している中で、夏場だけ森町に一時的に居住している方が利用している状況が見られ、一時的な居住者のニーズへの対応の必要性は、どのように認識すれば良いか。

【事務局】 役場で管理している分譲地に居住する方々と認識しているが相違ないか。

【伊藤委員】 最近では役場管理の分譲地以外にも別荘などの建築が増えており、分譲地に限った状況ではなくなってきている。

【事務局】 一時的とは言え森町に居住している方の利用を制限することは考えてい

ないため、柔軟に対応していくことが有効と認識している。

【伊藤委員】 国道5号沿いのファミリーマート付近を新たな停留所位置にすることを検討されており、大沼公園ICが近くにあるため、周辺の交通状況が複雑であり十分な調整を図る必要があると認識しているが、現時点での調整状況はどうなっているか。

【事務局】 店舗との調整は未実施であるが、実際の走行などを通じて安全性を十分に考慮した上でルートを確定することを想定している。

・本会議をもって、本案について承認

②地域内フィーダー系統補助に関する計画認定申請について

・ 別途資料により説明

【佐々木委員】 地域内フィーダー系統補助がどういうものか、概要をご説明いただけないか。

【酒井委員】 国土交通省が設置する補助制度であり、鉄道や路線バスなどの地域幹線系統に接続する支線、いわゆるフィーダー系統として位置付けられる交通の収支赤字分の1/2を補助する制度である。

【佐々木委員】 収支赤字の算定はどのように算出するのか。

【酒井委員】 運賃などの運行収入からガソリン代などの運行に係る経費、いわゆる運行支出を差し引いて算出している。

【佐々木委員】 収入は運行収入のみが対象か。

【酒井委員】 一般的には運賃による収入が主であるが、広告収入などの副次的なものも対象となる。

【事務局】 具体的な例を挙げると、約55万円の運行収入から約800万円の運行支出を差し引いた745万円が赤字として算出され、最大で半分が補助対象となる。

【伊藤委員】 運行経費は議会承認を得ているか。

【事務局】 承認をいただいております、補助適用額以外の金額について各種財源を活用しながら継続して維持できる体制を構築することを想定している。

・本会議をもって、本案について承認

④NPO法人まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏 総括

- ・森町の進め方は非常に丁寧であり、現状は順調に進んでいると認識している。
- ・公共交通はまちづくりの主役ではなく、まちづくりの下支えとして機能すべき性質であるため、住民が公共交通を利用して訪れたいと思えるまちづくりも重要である。
- ・森町においては、市街地に居住する住民の利用も路線を維持していくためには重要なファクターである。
- ・ちょっとした距離の移動、いわゆる「ちょい乗り」というキーワードが上手くマッチしており、市街地のちょっとした利用は路線維持に貢献されている。
- ・一時的な期間のみの補助や財源ではなく、地域内フィーダー系統補助のような継続性のある補助を受けることも持続可能な公共交通には重要である。
- ・今後、人口減少が進む中で、1人の利用者がいなくなることで全体述べ利用者数に大きく影響してくるため、どのように対応していくかも重要である。
- ・実際に運行を始めてみないと具体的な意見が出てこないため、今回は運行内容を踏まえた意見が多く出てきており良い傾向である。
- ・今後も住民意見交換を実施することは重要であるため、私からも住民の方の協力を促すような啓発も図っていきたい。
- ・交通会議の委員の方々にも、これまでと変わらず活発に意見を挙げていただけると幸いである。

4. その他

【事務局】 次回の会議は8月23日（水）の開催を予定。

5. 閉会